

# ROLES REPORT

No.6

## 北朝鮮の内在論理： ナショナリズム形成と世界観の変化

宮本悟 (聖学院大学)

2021.3



ROLES REPORT\_No.6

# 北朝鮮の内在論理： ナショナリズム形成と世界観の変化

宮本悟 (聖学院大学)

2021.3

発行所 東京大学先端科学技術研究センター  
創発戦略研究オープンラボ (ROLES)

〒153-8904  
東京都目黒区駒場4-6-1

Tel 03-5452-5462

Webサイト <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/>



東京大学 先端科学技術研究センター  
Research Center for Advanced Science and Technology  
The University of Tokyo



## はじめに

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)は、いうまでもなく権威主義体制の一つである。しかも、21世紀の世界では、全体主義体制の特徴を強く持つ極少ない国の一つである。20世紀に生まれた全体主義体制は、超国家主義や社会主義によく見られたが、20世紀の終わりまでにはほとんど姿を消した。北朝鮮はその例外であり、民主主義体制とは最も対極に位置する存在である。

しかも、既存の国際秩序を形成してきた米国と、1950年から約70年にわたって軍事的に対立してきた。それは冷戦時代から現在に至るまで変わっていない。その間、米国が主導してきた国際秩序を受け入れたことがなく、自由貿易体制に関心を向けたこともない。筋金入りの反リベラルである。

もちろん、北朝鮮ではこの現状を望ましいものと考えているわけではない。しかし、それは既存の国際秩序を受け入れたり、自由貿易体制に入ったりすることを望んでいるのではない。北朝鮮は、既存の国際秩序の現状を変更することで、朝鮮半島から米国の影響力を排除して、米国に勝利することを望んできた。それも冷戦時代から現在に至るまで変わっていない。2018年と2019年に開催された米朝首脳会談も、核兵器と大陸間弾道ミサイル(ICBM)に恐れをなして米国が対話を求めてきたと金正恩は国内に説明した<sup>1</sup>。国家に内在する論理では米国と和解するのではなく、米国に勝たねばならないのである。

北朝鮮が既存の国際秩序に挑戦することは、国際政治のパワーバランスだけで説明できるものではない。北朝

1 金正恩「現段階での社会主義建設と共和国政府の対内外政策に対して 朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第1次会議で行った施政演説 2019年4月12日」『労働新聞』2019年4月13日。



鮮の核兵器や大陸間弾道ミサイル(ICBM)ICBMの開発は、米国に対する抑止力を持つことで、米国とのパワーバランスを取るための手段として説明できようが、そもそも北朝鮮はなぜ米国に勝たなければならないのかを説明できないからである。それは国家に内在する論理から説明できよう。

また、北朝鮮は社会主義であるが、非社会主義である第三世界の国々との親密な関係も構築してきた。しかも、それは決して、米国と対立する国々だけではなかった。どうして、北朝鮮は、第三世界の国々とも親密な関係を築こうとしてきたのか。これも、米国とのパワーバランスだけでは説明できない。第三世界の国々は、たいてい北朝鮮が頼りにできるような軍事力を持っていないからである。むしろ、北朝鮮が第三世界の国々に軍事支援をしていた。これも国家に内在する論理から説明できるのではないだろうか。

本稿では、なぜ北朝鮮が既存の国際秩序の変更によって米国に勝利することを望むのか、なぜ第三世界の国々との親密な関係を築こうとするのかを北朝鮮の内在論理から説明したい。そのためには、国家のあり方であるナショナリズムの形成と、その世界観の変化に着目したい。それによって、北朝鮮が、欧米とは異なる論理で国家を形成し、全く異なる世界観で国際社会を見ていたことが理解できよう。

## 1. 冷戦期における北朝鮮のナショナリズムと世界観

冷戦期、北朝鮮の統治イデオロギーとしてのナショナリズムに「民族主義」はなかった。北朝鮮のナショナリズムは「愛国主義」または「愛国主義思想」と呼ばれており、民族主義とは区別されていた。

1964年に出版された『大衆政治用語辞典 第3版』では、愛国主義とは「敵を憎み、祖国と人民を愛し、その隆盛発展のために献身闘争する思想をいう」となっている<sup>2</sup>。その反面、民族主義とは「搾取階級の利益を全民族主義的な利益のように欺き、他の民族たちとの反目を主張する反動的思想や主張をいう」となっている<sup>3</sup>。「(ブルジョアが支配階級である)資本主義社会でブルジョワジーがほざく《愛国主義》はその本質において民族主義」になっていることから、北朝鮮では民族主義とはブルジョア階級の利益を守るためのものとされていた<sup>4</sup>。

そのため、北朝鮮では民族主義について否定的な見解が多かった。たとえば、北朝鮮の最高指導者であった金日成は、1966年10月5日に「我々は国際主義者であるため、孤立主義や民族主義に徹底的に反対します」と語っていた<sup>5</sup>。

もともと北朝鮮では南北朝鮮の対立を「共産主義者と民族主義者の対立」と考える向きがあった。北が共産主義者であり、南が民族主義者である。ただし、金日成は、1965年6月22日に日韓基本条約が締結されると、「我々と南朝鮮傀儡との対立は共産主義者と民族主義者との対立ではなく、愛国者と売国奴との対立」と語り始めて、韓国政府を民族主義者とすら見なさなくなった<sup>6</sup>。

1971年8月20日に開催された南北赤十字予備会談を皮切りに韓国政府との対話が始めると、金日成は「祖国統一のため共産主義者であれ、民族主義者であれ、金がある人であれ、ない人であれ、イエスを信じる人であれ、仏

2 朴順序『大衆政治用語辞典』第3版(平壤、朝鮮労働党出版社、1964年)512。

3 同上、176。

4 同上、512。

5 金日成「現情勢と我が党の課業 朝鮮労働党代表者会で行った朝鮮労働党中央委員会委員長金日成同志の報告」『労働新聞』1966年10月6日。

6 金日成「朝鮮労働党創建20周年に際して 朝鮮労働党中央委員会委員長金日成同志の報告」『労働新聞』1965年10月11日。

教を信じる人であれ、関係なく全民族が団結しなければなりません」と民族主義者を容認する言動を発するようになった<sup>7</sup>。

しかし、南北対話のために民族主義が容認されるようになって、民族主義が北朝鮮のナショナリズムに取り入れられたわけではない。その要因は、当時の北朝鮮の世界観にある。

『大衆政治用語辞典 第3版』によると、「民族主義は帝国主義者たちの戦争準備のための思想的武器であり、他の民族を隷属させる政策を弁護する道具である。そのために民族主義は国際主義と完全に対立し、愛国主義とも何の関係もない」となっている<sup>8</sup>。「国際主義」と民族主義は対立する概念なのである。金日成の後継者に指名されていた金正日は、1982年3月31日に「我ら共産主義者達は民族主義者になれません。共産主義者達は真実の愛国主義者であると同時に真実の国際主義者です」と語っていた<sup>9</sup>。当時の北朝鮮における共産主義者の世界観では、民族主義は敵対的なイデオロギーであった。

ただし、北朝鮮の国際主義が何かを理解しておく必要がある。それは「プロレタリア国際主義」から派生したものである。プロレタリア国際主義とは、世界のプロレタリアの連帯のことである。カール・マルクスとフリードリヒ・エンゲルスによって1848年に出版され、「共産主義者はどこでも、すべての国の民主的諸党派の団結と統一のために努力する…万国のプロレタリア団結せよ!」で締めくくられた『共産党宣言』にその端緒を見出すことができる<sup>10</sup>。プロレタリア国際主義に基づけば、民族間の壁はプロレタリア団結の障害になる。

プロレタリアについて理解するには、『共産党宣言』の第1章が「これまでのすべての社会の歴史は階級闘争の歴史である」で始まるように、階級闘争を理解しておく必要がある<sup>11</sup>。北朝鮮の支配政党である朝鮮労働党のみならず、共産主義社会の実現を目指すマルクス・レーニン主義政党は階級闘争で世界を見てきた。マルクス・レーニン主義の世界観とは、ブルジョア革命によって封建支配階級を打倒した後の世界は、支配階級であるブルジョア階級(ブルジョワジー)と被支配階級であるプロレタリア階級(プロレタリアート)が闘争しているというものである。社会主義革命が起こると、反対にプロレタリア階級がブルジョア階級を支配するようになり、社会主義国家になる。1972年の社会主義憲法制定は北朝鮮が社会主義革命に至って、社会主義国家になったという宣言でもあった。

将来に、共産主義革命が起こって全てがプロレタリア階級になると、階級闘争がなくなり、世界は共産主義社会に移行することになる。国家は支配階級が被支配階級を支配するための道具であるから、共産主義革命によって国家も消滅することになる。ただし、北朝鮮の歴代最高指導者である金日成や金正日、金正恩は、知られている限り、共産主義革命によって国家が消滅するという見解を出したことがない。植民地から脱した新興国として、それは最高指導者本人も国内の人々も支持できない論理なのであろう。

社会主義革命以前の北朝鮮は、プロレタリア階級が他の階級と共同戦線を組んで人民政府を形成する人民民主主義であるとされていた。もちろん、社会主義も人民民主主義もプロレタリア階級がブルジョワ階級と闘争している社会であることに変わりはない。人民とは、革命に共に参加できる人たちのことを意味するのだが、時代によって概念は異なる。『大衆政治用語辞典 第3版』によると、当時の北朝鮮では「親日、親米派、民族反逆者、地主、隷属資

7 金日成「総連の前に出された3つの課題について 1973年10月17日」『金日成全集』53巻(平壤、朝鮮労働党出版社、2004年)78。

8 朴順序、前掲、176。

9 金正日「主体思想について 1982年3月31日」『金正日選集』8巻(平壤、朝鮮労働党出版社、1998年)444。

10 カール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルス『共産党宣言』塩田庄兵衛訳(角川書店、1979年)79。

11 同上34。

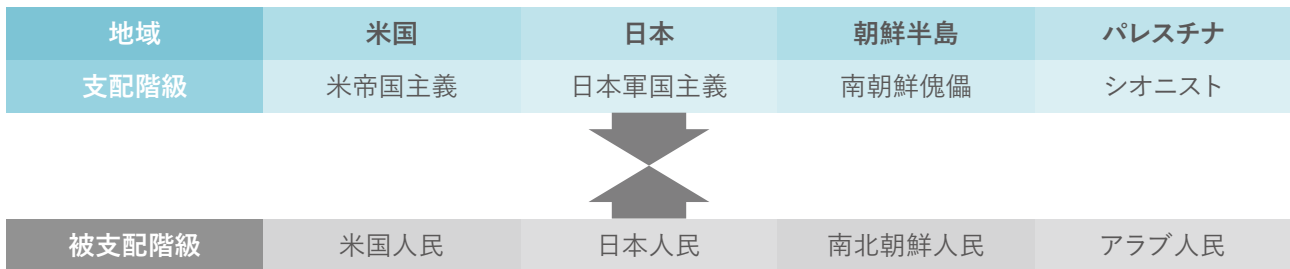
本家を除いたすべての人」が人民である<sup>12</sup>。プロレタリア階級だけを意味するのではないが、プロレタリア階級と共に革命に参加できれば、農民でも、商売人でも人民になる。

朝鮮労働党の階級闘争の世界観を国際関係に広げると、米国はブルジョア階級が支配する米帝国主義であり、日本はブルジョア階級が支配する日本軍国主義となる。南朝鮮(韓国)は米帝国主義が支配しており、米帝国主義の傀儡政府が形成されている。これらのブルジョワ階級はプロレタリア階級を含む被支配階級である人民を搾取している。

北朝鮮の国際主義は、人民の連帯のことである。つまり、被支配階級である米国人民や日本人民、そして南朝鮮人民など、世界の人民との連帯である。ブルジョワ階級に搾取されている米国人民や日本人民、南朝鮮人民は、人民政府を形成している北朝鮮人民と連帯できると北朝鮮では考えていた。そのために、ブルジョア階級である米帝国主義や日本軍国主義、南朝鮮傀儡は打倒しなくてはならない敵対階級であり、人民の敵とされる。

その世界観は、図1のように横割りである。国家や地域の違いはあれども、階級の違いの方が大きな意味を持つ。支配階級同士は国家や地域を超えて結託しているが、被支配階級同士も国家や地域を超えて連帯しており、階級間の対立が世界の構図になっている。

図1 冷戦期における北朝鮮の世界観



ただし、どこが敵対階級であり、誰が人民というのかは時代によって異なる。実際のところ、それは都合よく朝鮮労働党で解釈されるのである。イスラエルは、1948年の建国当時はソ連が承認していたので敵対階級ではなかったが、1953年12月にソ連とイスラエルが断交すると、ユダヤ復興主義者(シオニスト)として敵対階級に入った<sup>13</sup>。そして、後にイスラエルと対立するアラブ人民との連帯を北朝鮮は求め始めるのである。

冷戦時代、北朝鮮でいう「祖国統一」は、国際主義の延長線で考えられていた。南朝鮮人民が立ち上がって、支配階級である米帝国主義を朝鮮半島から追い出し、日本軍国主義との関係を断ち、南朝鮮傀儡を打倒して人民政府が成立すれば、北朝鮮と連帯できる。それが祖国統一につながることになる。だから、統一のために「外勢(外国勢力)」に依存したり干渉を受けたりしてはならないと北朝鮮が主張するのは、米帝国主義や日本軍国主義を朝鮮半島から追い出せという意味である。

そのため、韓国政府が米国や日本と対立すればするほど、統一に近づくことになる。それは支配階級同士の矛盾の現れであり、南朝鮮人民が立ち上がりやすい状況である。反対に、北朝鮮が中国人民やソ連人民、その他の人民

12 朴順序、前掲、496。  
13 『朝鮮中央年鑑』1954-1955 年度版(平壤、朝鮮中央通信社、1954年)637。

と交わることは統一の邪魔にならない。それは国際主義に基づくものであって、反帝国主義による平和主義とされる。

1950年代末から中ソ論争が始まると、北朝鮮は、その世界観の延長線で、アジア人民やアラブ人民、アフリカ人民、ラテンアメリカ人民など世界の人民との連帯を目指して第三世界外交を展開していくことになる。たとえ、それらの国々が米国と対立していなくても、米国とある程度距離を置いていれば、人民との連帯はできると考えたのである。そして、その世界観では、反帝国主義の下に世界の人民や人民政府が支配階級である帝国主義を打倒して、人民による平和主義に基づいた新しい国際秩序を形成することが理想になる。

ただし、第三世界の指導者や人民に、米国が主導する国際秩序ではなく、北朝鮮の世界観に正当性があると信じさせるだけのイデオロギーを必要とした。1960年代中頃に中ソの対立が大きくなると、北朝鮮ではマルクス・レーニン主義に代わって主体思想(国内向けでは金日成主義)を対外向けに北朝鮮の正当性を宣伝するためのイデオロギーとして使い始めた。そして、世界各地に主体思想研究組織を設置して、その宣伝に努めている。日本にはチュチェ思想国際研究所が設置された。時代が移って主体思想の内容も変わり、名称も金正恩時代からは金日成・金正日主義が使われるようになったが、現在でも北朝鮮の対外向けイデオロギー宣伝のためとして、世界各地に主体思想研究組織(または先軍政治研究組織・金日成・金正日主義研究組織)が設置され続けている。

## 2. 民族主義の受容

韓国での民主化運動の高まりによって、1987年6月29日に全斗煥政権が民主化を宣言した頃、北朝鮮ではナショナリズムに民族主義を受け入れ始めた。金正日は朝鮮労働党中央委員会の機関紙である『労働新聞』に7月15日に掲載された談話で、共産主義者は民族主義者になれないとしながらも、「民族第一主義」を提唱し、それまで否定していた民族主義を主体思想の一部に取り入れるようになった。ただし、その談話の日付は一年前である1986年7月15日のものとされていた<sup>14</sup>。理由は明らかではないが、民主化宣言の前から、民族主義者である韓国の民主化運動家たちを取り込むために準備していたのかもしれない。国際主義だけでは、韓国の民主化運動家たちを取り込めないことを分かっていたのであろう。1989年12月28日に金正日は、民族第一主義を朝鮮民族第一主義と呼んで、朝鮮民族第一主義精神を「朝鮮民族の偉大性に対する誇りと自負心、朝鮮民族の偉大性をさらに輝かせようという高い自覚と意志として発現される思想感情」と定義し、民族主義を受け入れる態度を鮮明にした<sup>15</sup>。

民族主義を受け入れ始めると、南に対して北に民族の優位性があることを示す作業が始められた。金正日が「民族第一主義」を提起した後、北朝鮮では、朝鮮民族が平壤起源であるという歴史観の構築に着手した。そのために、1987年から檀君(紀元前2333年に即位したという神話上の古代朝鮮の王)を歴史に組み込む議論が北朝鮮で活発になった<sup>16</sup>。1988年7月7日に韓国の盧泰愚大統領による「民族自尊と統一繁栄のための特別宣言」から南北交流が始まったことも、北が南に対して優位に立つ必要性を高めたと考えられよう。

さらに、古代の黄河文明の殷朝を滅ぼした周朝によって朝鮮に封じられて古代朝鮮の始祖となったと『史記』に

14 金正日「主体思想教養で提起されるいくつかの問題について 朝鮮労働党中央委員会責任幹部たちと行った談話 1986年7月15日」『労働新聞』1987年7月15日。

15 金正日「朝鮮民族第一主義精神を高く発揚させよう 朝鮮労働党中央委員会責任幹部たちの前で行った演説 1989年12月28日」『金正日選集』9巻(平壤、朝鮮労働党出版社、1989年)444。

16 堀田幸裕「北朝鮮における「始祖檀君」教化の政治的背景」『東アジア地域研究』第12号(2005年7月)16。

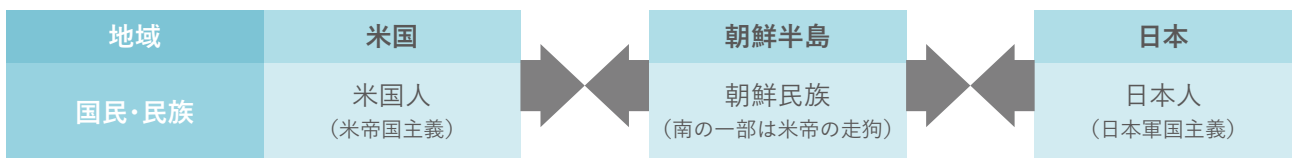


記されている箕子の存在を否定することになった。箕子は殷朝の王族であり、現代の民族主義の観点では中国人になるからである。1989年4月2日と14日に金日成が、平壤の牡丹峰にあった箕子陵を掘り返して何もなかったために箕子の存在が虚偽であることが明らかになったことと、檀君が実在の人物か歴史学者が解明すべき問題であると語った<sup>17</sup>。

金日成もまた民族主義を受容することになった。金日成は、1991年8月1日に「本来、民族主義は民族の利益を擁護する進歩的な思想として発生しました。精神労働をしても、肉体労働をしても、自分の民族のため有益な仕事をする者たちこそ本当の民族主義者になれます。単一民族国家である我が国において真正な民族主義はまさに愛国主義になります」と語った<sup>18</sup>。

横割りであった北朝鮮の世界観に民族主義が入ると、図2のように世界観が縦割りになるはずである。これは既存の国際秩序である主権国家体制の世界観と同じである。しかし、主権国家体制の世界観になると、国際主義が失われて、世界人民との連帯を損なう可能性がある。そこで、民族主義と国際主義を両立させるために、北朝鮮では新しい民族主義の構築が模索され始めた。

図2 民族主義を受容した後の北朝鮮の世界観



17 金日成「東明王陵を立派に整えることについて 東明王陵と東明王陵総計画模型と図面を見て幹部たちと行った談話 1989年4月2日、14日」『金日成著作集』41巻(平壤、朝鮮労働党出版社、1995年)371-373。朝鮮半島では、先祖が現代の中国の領域から来た人たちが数多くいるので、この問題を突き詰めると誰が朝鮮民族なのか問われることになるのだが、その点は問題にされていない。ちなみに当時の韓国大統領である盧泰愚は、交河盧氏であって、先祖は春秋時代の姜齊の君主である桓公の時代の宰相・管仲を支えた上卿の高凶(姜姓高氏)である。中国山東省淄博市にある高凶の墓には、盧泰愚も同祖の碑を建てている。

中国山東省淄博市にある高侯の墓(筆者撮影)



高侯の墓の側にある盧泰愚の碑(筆者撮影)



18 金日成「我が民族の大団結を成し遂げよう 祖国平和統一委員会責任幹部、祖国統一汎民族連合北側本部成員達と行った談話 1991年8月1日」『金日成著作集』43巻(平壤、朝鮮労働党出版社、1996年)168-169。

まず北朝鮮中心の民族主義が構築された。1993年9月28日に『労働新聞』は、平壤市江東郡に伝わる檀君陵を金日成が視察し、そこから発掘された遺骨や遺物から檀君が実在の人物であることが証明されたと報道した<sup>19</sup>。10月4日に『労働新聞』は、社説で「朝鮮民族は北にしようと南にしようと海外にしようと皆一緒に、檀君の後裔として一つの血筋を受け継ぐ単一民族である」ことを主張した<sup>20</sup>。10月12日から13日に「檀君と古朝鮮に関する学術発表会」が開催されて、「平壤は古代文化の中心地」と発表した<sup>21</sup>。11月6日に『労働新聞』は「平壤はここを中心にして文明の歴史が始まり、同胞の同質性が成り立つ我が民族の発生地である。平壤は古朝鮮の都邑として最初の古代国家の発生地である」ことを歴史事実として発表した<sup>22</sup>。1993年10月20日に金日成は檀君陵を新しく改築することを指示し、それが南や海外の朝鮮人に対して北の優位性を示すことになることを説明した<sup>23</sup>。朝鮮民族は平壤発祥であるという歴史が作られて、北朝鮮が中心となる民族主義が構築されたのである。

1994年7月8日に金日成が死去すると「檀君民族の神様」<sup>24</sup>や「檀君民族の父」<sup>25</sup>として金日成が祭り上げられた。新しくなった檀君陵は金日成の死後、10月11日になって完成した<sup>26</sup>。一時的であるが、民族主義を受容する段階で、民族名を「檀君民族」とする動きがあったのである。

### 3. 朝鮮民族と金日成民族

ところが、檀君陵が完成した後、金日成を「檀君民族の神様」ではなく、「金日成民族の始祖」として祭り上げる動きが始まった。1994年10月13日に『労働新聞』は中国延辺大学出版社社長兼総編集主任である崔厚沢が「金日成民族」について論じた論説を掲載した<sup>27</sup>。10月16日に金正日は「我が民族の建国始祖は檀君ですが、社会主義朝鮮の始祖は偉大なる首領・金日成同志であられます…今海外同胞達は朝鮮民族を金日成民族といっています」と語った<sup>28</sup>。檀君民族の呼称はなくなり、民族名を金日成民族とする動きが始まったのである。

その後、金日成民族は、朝鮮民族とは別の概念に整理されていく。民族主義をナショナリズムに取り入れた北朝鮮では、ブルジョワ階級もプロレタリア階級も合わせたすべての朝鮮民族の中に、社会主義朝鮮(北朝鮮)を成立させたプロレタリア階級による金日成民族が存在するという二つの民族主義を構築していった。こうして北朝鮮では、国際主義の世界観と主権国家体制の世界観を両立させるために、2つの民族主義が混在したナショナリズムが形成された。

北朝鮮で出版されている『朝鮮語大辞典(1992年版、2006年版、2017年版)』からその後の変遷を理解できる。「民族」は1992年版から「血のつながり、言語、文化、地域の共通性に基づいて、歴史的に形成された社会生活単位であり、人々の強い運命共同体」になっており<sup>29</sup>、「民族主義」は1992年版から「封建主義に反対するブルジョワ民族

19 『労働新聞』1993年9月28日。

20 『労働新聞』1993年10月4日。

21 『労働新聞』1993年10月14日。

22 『労働新聞』1993年11月6日。

23 金日成「檀君陵改建方向について 檀君陵改建関係部門 幹部協議会で行った演説 1993年10月20日」『金日成著作集』44巻(平壤、朝鮮労働党出版社、1996年)262-271。

24 『労働新聞』1994年10月1日。

25 『労働新聞』1994年10月8日。

26 『労働新聞』1994年10月12日。

27 崔厚沢「天出偉人と朝鮮」『労働新聞』1994年10月12日。

28 金正日「偉大な首領様を永遠に高く掲げて首領様の偉業を最後まで完成しよう 朝鮮労働党中央委員会責任幹部たちで行った談話 1994年10月16日」『金正日選集』13巻(平壤、朝鮮労働党出版社、1998年)427-428。

29 社会科学出版社『朝鮮語大辞典』1巻(平壤、社会科学出版社、1992年)1229。

運動時期には人民大衆の利益とともに新興ブルジョワジーの利益まで包括する民族共通の利益を反映する。単一民族国家である我が国では真正な民族主義はまさに愛国主義になる」と解説され、1992年版では「民族の利益を擁護する進歩的な思想」<sup>30</sup>、2006年版からは「自分の民族を愛し、民族の利益を擁護する思想」<sup>31</sup>と肯定的に評価されている。

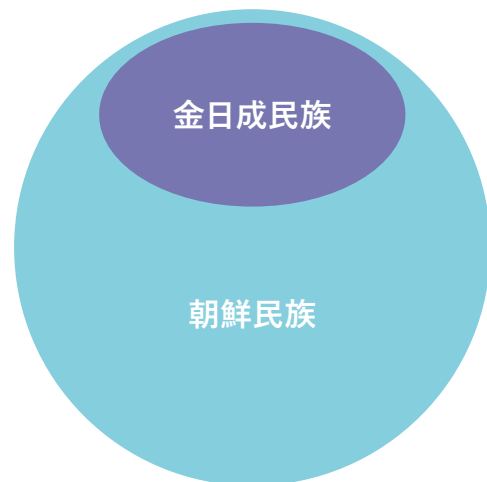
また「朝鮮民族」は2006年版から掲載され、「一つの血のつながりと言語、文化を持って、平壤を中心とした朝鮮半島で形成された単一民族。朝鮮民族は、檀君を元々の先祖とし、悠久の歴史と輝かしい文化を持った聡明な民族である」<sup>32</sup>とされている。「金日成民族」は2017年版から掲載され、「偉大なる首領・金日成同志を社会主義朝鮮の始祖とする朝鮮民族」<sup>33</sup>とされている。

朝鮮民族と金日成民族という2つの民族主義の関係を図に表すと、図3のようになる。朝鮮民族の中に金日成民族が入る。金日成民族は国際主義の世界観が強く反映されているが、朝鮮民族は民族主義の世界観で成り立っている。

図3 朝鮮民族と金日成民族の関係

朝鮮民族の中で、社会主義に覚醒して金日成を始祖とする北朝鮮人は、金日成民族である。つまり、北朝鮮人は、朝鮮民族であり、金日成民族でもある。しかし、韓国人は、朝鮮民族であるが、金日成民族ではない。

ただし、韓国人や海外の朝鮮人でも社会主義に覚醒し、金日成・金正日主義(主体思想)に従うものは金日成民族ということになる。



北朝鮮が民族主義をナショナリズムに取り入れたのは、南側に同一民族であることを認識させ、北側に優位性があることを示すためであったが、南北交流が進むにつれて共産主義と民族主義を両立させる必要が出てきた。以前のように共産主義と民族主義が対立する概念だと、南北交流の障害になるからである。

2000年6月15日に初めて南北首脳会談が開催されると、金正日は、共産主義と民族主義を両立させる見解を出した。金正日は、2002年2月26日に「共産主義と民族主義が両立できないと思う事は間違った見解です。共産主義は労働階級の利益だけを擁護する思想ではありません。共産主義は労働階級の利益とともに民族の利益を擁護する思想であり、真の愛国愛族の思想です。民族主義もまた国と民族の利益を擁護する愛国愛族の思想です。愛国愛族は共産主義と民族主義の共通の思想感情であり、ここに共産主義と民族主義が両立できる思想的基礎があります。そのため共産主義と民族主義を対峙させて民族主義を排斥する理由と根拠はありません。…首領様(金日成)は、

30 同上、1231。

31 社会科学出版社『朝鮮語大辞典(増補版)』1巻(平壤、社会科学出版社、2006年)1807。

32 同上、2巻、1406。

33 社会科学出版社『朝鮮語大辞典(増補版)』1巻(平壤、社会科学出版社、2017年)824。

共産主義者になろうとすれば真実の民族主義者にならねばならぬと言われました」と語った<sup>34</sup>。

現在の北朝鮮では、2009年4月9日に修正された社会主義憲法で共産主義を除外したので、共産主義革命を目指していないことになっている。とはいえ、社会主義は維持されているので、国際主義の世界観も残っているが、2021年2月18日付け『労働新聞』に掲載された「政論」から再び共産主義を目指す議論が展開され始めた<sup>35</sup>。4月6日から8日に開催された朝鮮労働党第6次細胞書記大会で金正恩が共産主義を目標に掲げたことで、再び共産主義を目指すことになった<sup>36</sup>。現在の北朝鮮では、民族主義と社会共産主義を両立させるため、2つの民族主義によって成り立つナショナリズムが統治イデオロギーになっているといえよう。それは国際主義の世界観と主権国家体制の世界観を両立させていることでもある。

民族主義を支えるスローガンとしての朝鮮民族第一主義は現在でも続いているが、金正恩の時代に入ってから、民族に代わって、国家を使うスローガンも始まった。それが、「我が国家第一主義」である。2017年11月20日に『労働新聞』の「政論」という論評で初めて使われたが、それは自国生産品を愛好しようというスローガンに過ぎなかった<sup>37</sup>。しかし、2018年9月10日に金正恩が「世界が公認する我が共和国の戦略的地位と国力に相応しくも、我が人民が勇敢な革命的気勢と志向に合った闘争の旗は、まさに我が国家第一主義です」と語ったことで権威が与えられた<sup>38</sup>。ただし、その意味はまだ定着していない。2019年11月11日に『労働新聞』に掲載された「政論」では、「敬愛する元帥(金正恩)が抱かれさせてくれた人民大衆第一主義、我が国家第一主義の崇高な思想は、社会主義我が家の永遠の幸福を担保する偉大な家庭哲学である」とされていた<sup>39</sup>。2020年6月7日の『労働新聞』では、「我が国家第一主義は、社会主義祖国の偉大性に対する誇りと自負心であり、国の全体国力を最高の高みに上げようとする強烈な意志」とされた<sup>40</sup>。これは金正日の説明した朝鮮民族第一主義精神の内容とほぼ同じで、民族と国家を置き換えただけのような説明である。

我が国家第一主義と同じように使われているスローガンが、「金日成・金正日朝鮮第一主義」である。2019年1月16日に『労働新聞』に掲載された論説で「我が国家第一主義は決して抽象的な概念ではない。絶世偉人(金日成・金正日)を高く奉り、人民の満福がまばゆく花咲く社会主義祖国こそ世界で最も強大で偉大な国である。真の人民の国のために誠実な血と汗を惜しみなく捧げよう。朝鮮人民の胸に激しく噴出するこの崇高な思想感情がまさに我が国家第一主義、偉大な金日成・金正日朝鮮第一主義である」と論じられたのが初出である<sup>41</sup>。いつのことかは分からないが、金正恩が「我が国家第一主義はまさに偉大な金日成・金正日朝鮮第一主義です」と語ったことで権威が与えられた<sup>42</sup>。そのため、金日成・金正日朝鮮第一主義は、我が国家第一主義と同じ意味になるはずである。

民族を国家に置き換えたスローガンが始まったといっても、民族主義を否定しているわけではない。朝鮮民族と金日成民族は現在でもよく使われているし、朝鮮民族第一主義もそのままスローガンとして使われている。単一民族という前提で国家を論じているから、民族と国家の間に矛盾はないというのが北朝鮮側の見解になるのかもしれ

34 金正日「民族主義に対する正しい理解を持つことについて 2002年2月26日、28日」『金正日選集』15巻(朝鮮労働党出版社、2005年)258-259。

35 董泰冠「政論：新しい勝利に向かう第一歩を大きく踏み出そう」『労働新聞』2021年2月18日。

36 金正恩「朝鮮労働党第6次細胞書記大会で行った閉会辞」『労働新聞』2021年4月9日。

37 『労働新聞』2017年11月20日。

38 『労働新聞』2020年6月7日。

39 『労働新聞』2019年11月11日。

40 『労働新聞』2020年6月7日。

41 『労働新聞』2019年1月16日。

42 『労働新聞』2019年7月4日。



ないが、それならば、なぜ民族の代わりに国家を前面に出した新しいスローガンが必要になったのかはよく分からない。これらのスローガンが整理されていくには、まだ時間がかかるかもしれない。

## まとめ

北朝鮮は、全体主義体制であり、既存の国際秩序を変更しようとして、冷戦時代から現在に至るまで米国と対立してきた。それは単純に米国とのパワーバランスのためではない。国家の内在する論理として、米国に勝たなければならないからである。

その論理は国際主義である。世界を支配階級と被支配階級の対立という階級闘争の世界観で見ていた北朝鮮では、被支配階級である南朝鮮の人民との連帯によって、支配階級である傀儡政府を操る人民の敵である米帝国主義を追い出せば祖国統一ができると考えていた。さらに、世界の人民と連帯して支配階級である帝国主義を打倒することで、既存の国際秩序を打破して、人民による平和主義の新しい国際秩序を構築することを目指していた。

世界の人民との連帯に邪魔となる民族主義は、冷戦時代には国際主義の対極の概念としてナショナリズムから排除されていた。ただ、南北朝鮮の対話のために容認されていたにすぎない。しかし、韓国で民主化運動が盛り上がると、統一の機運が高まることを想定して、民族主義を受け入れる準備が始まった。

しかし、民族主義を受け入れると、世界観が既存の国際秩序である主権国家体制と同じになる。すると、国際主義が失われて、世界人民との連帯を損なう可能性がある。そこで、民族主義と国際主義を両立させるために、北朝鮮では新しい民族主義の構築が模索され始めた。それが、南に対して北の優位性を示すための北朝鮮を中心とする朝鮮民族と、社会主義である北朝鮮の国際主義の世界観を強く残した金日成民族であった。こうして、現在の北朝鮮では、国際主義の世界観と主権国家体制の世界観を両立させるために、2つの民族主義が混在したナショナリズムが形成された。

そのために、冷戦後、朝鮮半島の統一で北朝鮮が優位に立つために民族主義が受容されても、同時に世界の人民と連帯して帝国主義を打倒する国際主義の世界観も残された。したがって、北朝鮮は、朝鮮半島では支配階級である米帝国主義に勝利して追い出すために民族主義によって南の民主化運動家たちを取り込み、世界では反帝国主義によって既存の国際秩序を打破して平和主義の新しい国際秩序を構築するために国際主義の世界観で世界の人民と連帯することを続けているのである。

